

(別記)

大口町地域農業再生協議会水田フル活用ビジョン

1 地域の作物作付の現状、地域が抱える課題

当地域では水稲と麦・大豆の生産が盛んであり、一部の地域においては飼料用米、備蓄米、景観作物や露地野菜が作付されている。しかし、農家の高齢化が進んでおり後継者不足が懸念される。

2 作物ごとの取組方針

(1) 主食用米

売れる米作りの徹底により米の主産地としての地位を確保する。前年の需要動向や集荷業者等の意向を勘案しつつ米の生産を行う。

(2) 非主食用米

ア 飼料用米

主食用米の需給減が見込まれる中、飼料用米を麦・大豆に次ぐ転作作物に位置付ける。飼料用米の生産拡大に当たっては、コンタミ防止のために主に主食用品種での対応とし、30年度には30haの生産を目指す。

イ 備蓄米

主食用米と同じ機械、施設で取り組める転作作物として、平成25年度から新たな取り組みを開始したところである。30年度には4haの生産を目指す。

(3) 麦、大豆

麦については、産地交付金の産地戦略枠を活用し、GAP作成による生産性及び品質向上の取り組みを推進していく。実需者の要望に即し生産していく中で、30年度における麦の作付面積は65haとする。

大豆については、排水対策、難防除雑草対策の技術普及を図り、30年度における大豆の作付面積は10haとする。

(4) 野菜

野菜全般を振興品目とし面積は現状維持とする。

(5) 花き（花木、種苗を含む）

花き（花木、種苗を含む）全般を振興品目とし面積は現状維持とする。

(6) 果樹

果樹全般を振興品目とし面積は現状維持とする

(7) 地力増進作物

地力増進作物全般を振興品目とし面積は現状維持とする。

(8) 不作付地の解消

景観作物等の作付等を推進し、不作付地の解消に努める。

3 作物ごとの作付予定面積

作物	平成 25 年度の作付面積 (ha)	平成 28 年度の作付予定面積 (ha)	平成 30 年度の目標作付面積 (ha)
主食用米	296	270	265
飼料用米	10	28	30
米粉用米	—	—	—
WCS 用稲	—	—	—
加工用米	—	—	—
備蓄米	1	4	4
麦	48	65	65
大豆	12	10	10
飼料作物	—	—	—
そば	—	—	—
なたね	—	—	—
その他地域振興作物	31	31	31
野菜	6	6	6
景観形成作物	7	7	7
花き（花木・種苗を含む）	1	1	1
果樹	1	1	1
地力増進作物	1	1	1
その他	15	15	15

4 平成 28 年度に向けた取組及び目標

取組番号	対象作物	取組	分類※	指標	平成 25 年度 (現状値)	平成 28 年度 (目標値)	28 年度の 支援の有無
1	大麦	GAPによる生産性向上の取組	ウ	実施面積	48 ()	65 ()	有

※「分類」欄については、実施要綱別紙 16 の 2（5）の ア、イ、ウのいずれに該当するか記入してください。（複数該当する場合には、ア、イ、ウのうち主たる取組に該当するものをいずれか 1 つ記入してください。）

- ア 農業・農村の所得増加につながる作物生産の取組
- イ 生産性向上等、低コスト化に取り組む作物生産の取組
- ウ 地域特産品など、ニーズの高い製品の産地化を図るための取組を行いながら付加価値の高い作物を生産する取組

※現状値及び目標値が単収、数量など面積以外の場合、() 内に、数値を設定する根拠となった面積を記載してください。

※畑地の面積は含めないこと。

※28 年度の支援の有無の欄は、産地交付金による助成を行う取組は「有」を、助成を行わない取組は「無」を記載する。

5 産地交付金の活用方法の明細

別紙のとおり